

夏を代表するセミ

【参考文献】
文一総合出版 日本の昆虫1400①
文一総合出版 日本の昆虫1400②
小学館の図鑑NEO昆虫
KADOKAWA すごすぎる身近な昆虫の図鑑

シャーシャー



クマゼミ

大きさ 60~70mm

ギーリギーリ



アブラゼミ

大きさ 53~60mm

ミンミンミンミー



ミンミンゼミ

大きさ 55~63mm

チー



ニイニゼミ

大きさ 32~40mm

ツクツクボーシ
ツクツクボーシ



ツクツクボウシ

大きさ 41~47mm

カナカナカナ



ヒグラシ

大きさ 41~50mm

背中が出っ張っている



触角の3番目が2番目の
1.5倍の大きさ



触角の2番目と3番目の
節の大きさが同じ



泥がついている



平たい背中



触角の4番目が3番目の
1.5倍の大きさ



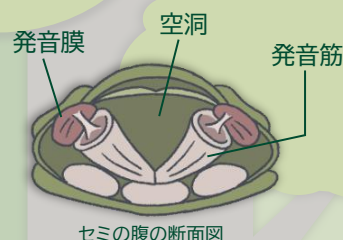
抜け殻

発行: 新宿御苑

セミのひみつについて知ろう！

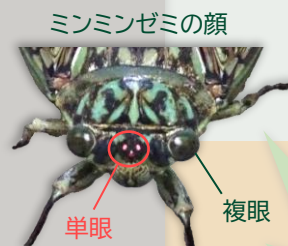
セミはどうやって鳴く？

セミは、鳴くのがオスだけで、メスは鳴きません。オスは交尾相手となるメスを呼ぶために鳴いています。セミは口ではなく、おなかにある「発音膜」を「発音筋」という筋肉で震わせて鳴いています。さらに、オスのおなかには空洞になっていて、音を大きく響かせるしくみになっています。



セミは目がたくさん

セミには、2つの複眼のほかに、複眼の間に三角形に並んだ3つの「単眼」があります。複眼は物の形や動きを見る目、単眼は光の明るさを感じる目で、それぞれ役割が違います。セミを手にとって体を傾けると、地面に近い方の翅をバタつかせます。これは左右の単眼で明るさの違いを感じ取り、体のバランスを保とうとしているためです。単眼は、セミが安定して飛ぶために大切な役割をしています。



セミはおもらしさん

セミを捕まえようとして失敗すると、よくおしっこをかけてくることあります。あれはわざとではなく飛ぼうと筋肉に力を入れる時に勝手におしっこが出てしまうのです。セミは樹液を飲んで栄養をとっていますが、樹液のほとんどが水分です。そのため、たくさん飲む必要があり、おしっこもたくさんしています。おしっこの成分はほとんど水なのでご安心ください。



セミが羽ばたくとき

メスのセミは、産卵管を木の幹にさして卵を産みます。ふ化した幼虫は土の中にもぐり、木の根から樹液を吸って数年間過ごします。成長した幼虫は、夜になると土の中から出てきて木や草に登り、「羽化」をします。羽化したばかりの体は黄緑色で、翅もまだやわらかく飛ぶことができません。数時間かけて体がかたまると、朝には見慣れた色の成虫となって飛び立ちます。



写真：自然教室「夜の森たんけん」
2025